

# 風と樹の詩

うた

～いまをみつめて～

社会福祉法人砂町友愛園  
砂町友愛園養護部 施設長 河上 準一  
〒198-0172 東京都青梅市沢井 1-506  
☎0428-78-8388 fax0428-78-9104  
<http://www.sunamachi.or.jp/>  
2016 年 秋号

## 行事雑感

施設長 河上 準一



砂町友愛園養護部は、多くのボランティアの方々に御協力と御支援をいただき支えられています。戦後、横田基地に滞在していた何人かの親切なアメリカ人が、両親をなくした日本の子どもたちを助けるためにクリスチャンルドレンファンドというものを設立しました。横田基地と当施設の関係はそれ以来、色々な団体や個人に引き継がれ続いています。先日もボランティアとして来てくださり、ハロウィンを通して異文化交流をしました。ボランティアさんと子どもたち、また職員も一緒になって本場のジャック・オー・ランタン作りをして、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

この交流行事の中で、私の脳裏には何故かこのハロウィンと似た懐かしい子どもの頃の思い出が甦ったのです。理由は私の故郷で似て非なる風習があったからでした。「ローソク出ーせー出ーせーよー 出ーさーないとー かっちゃんぞー おーまーけーにー喰い付くぞー」こんな囃し歌を歌いながら、子どもたちが手作りの空き缶ランタンを明りにして夕方から夜にかけて近所の家々を廻り、お菓子やローソクをねだるのです。

あれから何十年も経った今日、私にとって未だに鮮明に残る楽しかった思い出の記憶の意味を考えると、この砂町友愛園養護部の子どもたちが卒園あるいは退園してやがて大人になった時に、ここで参加し経験した沢山の行事を思い出深い楽しかった映像として脳裏に浮かべてくれるだろうかと考えに及ぶのです。当時、子どもたちだけで夜道を廻ることの新鮮さもあったのでしょう。しかし、年上の子が中心となって、空き缶ランタンを一緒に作ってくれた事、心細くなる夜道を先頭になって歩いて引率してくれた事、家々を廻っていただいたお菓子やローソクをきちんと分配してくれた事等々。そう思い巡らすと、行事の内容の他に、行事の中で関わった人と人との心温かな関係こそが原風景となって心に刻まれているのではないのでしょうか。

当施設でも四季折々の行事が沢山行われています。日常の生活から離れたちょっとした行事の中で、子どもたちの主体性や達成感を大切に、厳選された心に残る思い出深い行事を子どもたちと職員一同で共に作り上げていきたいと改めて思います。





# 行事報告

## ★…杉の子祭…★



前号の発行以降、たくさんの行事がありました。関係機関の皆さまにもご協力をいただきまして、ありがとうございました。一部ですが、子どもたちの様子をメッセージと共に紹介させていただきます。



今年の杉の子祭もさまざまなイベントを行いました。まず、“エッキ”というアーティストが洋楽『Stand by me』『Don't stop believing』の演奏とリズムゲームによって、子どもたちを楽しませてくれました。また、去年はオウメンジャーが杉の子祭に来てくれましたが、今年はオウメンジャーと一緒に妹のコウメンジャーも来てくれて、一層盛り上がりました。イベントだけでなく露店についても毎年、新しいゲームを増やす等して楽しめる工夫をしています。今年は『生きものすくい』を新しいゲームに加え、より楽しめるようにと施設長自らも川で小魚やザリガニ、ドジョウ等たくさんの生きものを集めて準備しました。ポイを使って色々な生きものをすくう事ができるというのが新鮮で、とても好評でした。子どもたちも杉の子祭を盛り上げるお手伝いをしながら、楽しむ事ができました。

杉の子祭で頑張ったところは、射的の仕事をしたことです。いろんな人が来てくれて、嬉しかったです。

中1男児

## ★…臨海…★

今年も皆で海に行ってきました。天気予報では雨が心配されていましたが、無事3日間とも海に入る事ができました。年に一度の3泊4日の旅行で、綺麗な魚や生き物を見つけたり、花火をしたり、美味しいご飯を食べたり、子どもたちにとって特別な思い出を作る事ができました。

初めて臨海に行って楽しかった事はカニを取った事と、スイカわりをした事です。ちょっと残念だった事は、病気があって海に入れなかった事です。一番の思い出はカラオケの時に、皆とワイワイキャーキャーした事です。おかげで皆と仲良くできました。

中2女児



## ★…キャンプ…★



夏休みに奥多摩のキャンプ場へ行き、1泊2日でキャンプをしました。多摩川でカヌー教室を行っている“CONCEPT”様よりラフティングツアーにご招待いただき、インストラクターの方に教わりながら川遊びもしました。自分たちで料理もしたりして、子どもたちにとって良い経験になりました。

僕たちは一泊でキャンプをしました。初日はラフティングをやりました。水はとても冷たかったけど、とびこみをしたり、およいだりして最高の思い出になりました。夜は4人で男子トークで眠れないほど楽しかったです。僕にとっては最後のキャンプだったけど、心にのこる二日間でした。

中3男児

## ★…招待行事…★



東京善意銀行を通じてミュージカルショー『魔法使いプリキュア！』や人形劇等にご招待いただきました。楽しいお出掛けとなり、子どもたちもとても喜んでいました。

プリキュアを見ている時に、みんな歌ったりして楽しんでいました。私も、一緒におどったりしました。一緒に来てくれた大人も、のりのりでした。みんな楽しいと言っていたので、また今度も見にいつて楽しみたいです。

小5女児

## ★…おーちゃんフェスタ…★



青梅市社会福祉協議会主催のおーちゃんフェスタに、フランクフルト、アイスコーヒー、ヨーヨーつりを出店しました。雨が降ってしまいましたが、子どもたちはとてもよく手伝ってくれました。お客様の笑顔も見ることができ、よい機会となりました。

## ★…ハロウィン…★

今年も横田基地の方々が遊びに来てくださり、兵隊さんたちのアイディアでランタン作りをしました。子どもも兵隊さんも物作りを通して自然と会話ができて、賑やかなパーティーとなりました。当日はランタンにキャンドルを灯し、優しい光に子どもたちも見惚れていました。



## ★…その他の行事…★



端午の節句



流しそうめん



十五夜



## ★…共同募金…★

赤い羽根共同募金の活動をしました。当日は気温が低く寒さがありましたが、子どもたちは元気に募金活動の協力を呼び掛けてくれました。初めて募金活動に参加する子どもは赤い羽根共同募金に協力してくれるたくさんの人を見て、「こんなに募金ってしてもらえるんだ」と驚いていました。この経験を通し、協力し支え合う気持ちの大切さを知ることができました。今年の募金の合計金額は48,384円です。たくさんのご協力ありがとうございました。





## 施設の取り組み

## 自立に向けての支援

砂町友愛園養護部では、子どもの自立支援に力を入れ社会資源の活用を積極的に行っています。現在、児童養護施設での社会資源の活用は必須ともいえます。

当施設は市街地から離れた場所に立地しているため、これまで社会資源の活用については、とりわけ民間の支援団体の活用は多くはありませんでした。しかし、最近ではNPO法人やボランティアグループなどが都内全域で活動を行う機会が増え、また出張型の支援も増えたこともあり、民間の支援団体の活用が気軽にできるようになりました。支援内容も学習指導や自立支援、アフターケア、進学支援、就労支援とさまざまです。また、東京都の自立支援強化事業により施設に自立支援コーディネーターが配置されたこともあり、より活用しやすい環境にあります。当施設でも、奨学金や助成金の活用、基礎学力の向上や進学を目的としたボランティアによる学習指導、就職希望者へのインターンや適性検査およびセミナーの実施、NPO法人主催の自立支援プログラムへの参加、退所者への食材や生活用品および防災用品の提供、アパート更新料など、さまざまな支援を受けています。

支援内容の充実は、世間の社会的養護に対する理解が増えたことがいえます。今後も子どものニーズに合った支援団体を有効に活用して子どもの自立支援につなげていきたいと考えています。

自立支援コーディネーター 新井 優介



## 福祉サービス第三者評価受審の結果について

### — 今年度の利用者調査結果から —

砂町友愛園養護部では、施設がここで暮らす子どもたちにとってより良いものになるように、東京都福祉サービス第三者評価 評価者名簿に登載されている評価機関より、子どもからのアンケートや聞き取り、職員からのアンケート、施設訪問調査を経て、専門的・客観的な立場から評価した結果を受けました。

子どもからのアンケートにおいて比較的満足度が高かった設問は「施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか」、また中学生以上において「将来に関する支援は、子どもの個別の要望や事情に応じて行われているか」等でした。反対に、満足度が低かった設問は「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」等でした。そのほかに「もっと気持ちを聞いて欲しい」、「しっかり子どもを指導して欲しい」、ルールへの要望などの記述も見受けられました。

これらの結果を踏まえ、施設として、今後のさらなる支援の向上に活かしていきたいと思っています。

★利用者調査と事業評価の詳細については

「とうきょう福祉ナビゲーション (<http://www.fukunavi.or.jp/>)」より、ご覧いただけます。

### ○フレンドホーム

家庭で生活することができない子どもを、夏休み、冬休み、土曜日、日曜日、祝日など、学校がお休みの期間に、ご都合の良い数日間お預かりいただける方を募集しています。これは、東京都の制度で、おおむね3歳から12歳の入所児が対象です。

### ○ボランティア

子どもに勉強を教えてください、一緒に遊んでくださる方、行事のお手伝いをしてくださる方を募集しています。

**募集しています**